

直島新美術館

NAOSHIMA NEW MUSEUM OF ART

2026 年度冬の展示替え 今津景 & バグース・パンデガ 「Currents without Anchors(錨なき流れ)」展

—2026 年 12 月 12 日より一般公開—



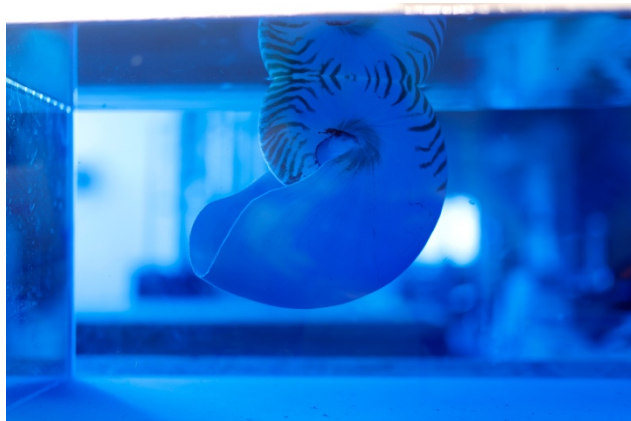
今津景《黒潮》（部分）2026 年 サイズ 310 x 1600 cm キャンバスに油彩

直島新美術館（館長：三木あき子）では、「循環・回帰・再生」を 2026 年度のシーズン・テーマとし、春と冬 2 回にわけた一部展示替えを進めてきました。春の展示替えに続き、12 月 12 日（土）から冬の展示替えとして今津景 & バグース・パンデガの展覧会を開催します。

現在、インドネシアのバンドンを拠点に活動する今津景（1980 年山口県生まれ）とバグース・パンデガ（1985 年インドネシア、ジャカルタ生まれ）が共同で開催する初の美術館における本格的な展示となる「Currents without Anchors(錨なき流れ)」展は、瀬戸内とインドネシアという、いずれも海に囲まれた島々で構成された環境の繋がりに思いを馳せるところから構想されました。

本展では、海をめぐる資源の移動、欲望の拡張、そしてそれにとともなう災害や戦争の記憶を、「流れ（current）」「浄化と保存」「破壊と再生」といった概念を通して可視化を試みます。過去・現在・未来や神話と史実が交差、重なり合い、海中や森林を想起させる空間は、波のように変化する光、大量の流木や大画面の絵画、音を奏でる彫刻など多様な作品群と自然の素材がつながり、呼吸をする「巨大な生命体」のようであり、鑑賞者はそのなかで、私たちが生きる環境や世界の状態についての深い思索に誘われます。

※「Currents without Anchors(錨なき流れ)」展は、2028 年中の展示予定です。



左：バグース・パンデガ《Leach》（部分）2026年



右：今津景 & バグース・パンデガによる展示シミュレーション画像



今津景《黒潮》2026年 サイズ 310 x 1600 cm キャンバスに油彩

「Currents without Anchors(錨なき流れ)」作家ステートメント

「Currents without Anchors」は、絵画、機械、植物、水、銅、光、音が互いに反応しながら、ひとつの呼吸する生態系のように循環するインスタレーションです。ここで「current」は、海流、水流、電流、情報の流れ、そして私たちが生きる「現在」という複数の意味を持ちます。

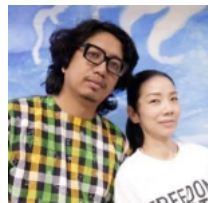
今津の巨大な絵画に描かれる海底の沈没船は、かつて戦争や資源輸送のために使われた人工物でありながら、現在では珊瑚や魚の住まう生態系となり、ダイビングスポットへと変化しています。一方で、石油燃料や防錆の銅塗料、金属などは戦争の残骸として海洋環境に作用し続けてもいます。自然は人間の歴史を消去するのではなく、その痕跡を取り込みながら別の生態系へと変えていきます。パンデガの銅メッキ装置では直島で長く産業として扱われてきた銅が電気によって移動し続け、その反応が頭上の海に浮かぶ木々の光の明滅へと変換されます。海と陸の合間である汽水域を住处とするマングローブの生体信号は音や映像を動かし、植物そのものが作品を変化させる主体となります。人間はこのシステムを設計することはできても、完全に支配することはできません。

「current」は人間と自然を対立するものとして捉えるのではなく、人間の歴史、戦争、テクノロジー、鉱物、植物、海がすべて同じ巨大な循環の内部にあることを示しています。直島とインドネシアを結ぶ海の上で、過去は終わることなく、物質と生命を通して現在の中を流れ続けています。

今津景 & バグース・パンデガ

作家について

今津 景 1980 年山口県生まれ。バンドン（インドネシア）を拠点に活動。インターネット時代の膨大な画像アーカイブを掘り起こし、断片化したデジタル空間を考古学的に再構成する。リサーチを基盤に 3D レンダリングやデジタルスケッチを用いて下絵を組み立て、CGI や Unreal Engine、3D プリントも導入しつつ、直感と身体感覚に根ざした絵画を展開。2018 年のインドネシア移住以降は、群島部の神話・口承と多層的な植民地史、日本の戦時関与を層状の領域として扱い、近年は東京オペラシティアートギャラリーや Museum MACAN での個展を通じて、映像・彫刻・没入型インスタレーションへと表現を拡張している。



バグース・パンデガ 1985 年ジャカルタ（インドネシア）生まれ。バンドン（インドネシア）を拠点に活動。16 世紀の香辛料交易からパーム油、電池用ニッケルに至るまで、資源抽出の歴史と現在を主題とし、DIY／ハッカー的手法で身近なテクノロジーや植物、希土類鉱物、楽器を組み合わせた装置を制作する。人の気配など超局所的な環境変化に応答し、音や運動を生む機械や化学反応を作動させるインスタレーションを発表。バンドン工科大学で修士号を取得。近年はクンスターレ・バーゼルやスイス・インスティテュートで個展を開催し、活躍の場を広げている。

展示替え公開日となる 12 月 12 日に関するご案内

12 月 12 日（土）午前中の内覧会后、12:00 より一般来場者に向けて開館し、以下の特別プログラムを開催いたします。

通常の開館時間とは異なり、当日 10:00～12:00 は休館しておりますのでご注意ください。

■12 月 12 日（土）直島新美術館プログラムスケジュール（予定）

参加費：無料 ※直島新美術館の当日の鑑賞チケットが必要です。

申込：不要。当日、会場にお集まりください。

オープニングのご挨拶および展示紹介

13:00 会場：1 階展示室（ギャラリー 1）

アーティストトークその他

司会進行：三木あき子（当館館長） 会場：多目的カフェスペース「&CAFE」

14:00 今津景＆バグース・パンデガによるトーク ※英日逐次通訳を予定

15:00 岡崎乾二郎とぱくきょんみによるトーク＆朗読会

交流会

16:00 岡崎乾二郎の書籍販売・サイン会ほか 会場：「&CAFE」

■展示替えに伴う休館

2026 年 11 月 24 日（火）～12 月 12 日（土）12:00 までは直島新美術館全エリア（&CAFE 含む）が臨時休館となります。

12 月 12 日（土）12:00 より一般開館いたします。

（なお「&CAFE」のカフェ営業は 12 月 13 日（日）より開始します）

■以下の作家の作品は展示替え以降も継続展示いたします。

●N・S・ハルシャ（「&CAFE」：1 階）●マルタ・アティエンサ（ギャラリー 1：1 階）

●ソ・ドホ（ギャラリー 2：地下 1 階）●岡崎乾二郎、村上隆、会田誠（ギャラリー 3：地下 2 階）

●蔡國強（ギャラリー 4：地下 2 階）●サニタス・プラディッタスニー（屋外）

●下道基行の「瀬戸内」資料館プロジェクトのサテライト展示（エントランス）

●インディゲリラ（ライブラリープロジェクト、地下 1 階）

※今後、予告なく展示アーティストは変更になる可能性があります。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 広報担当 〒761-3110 香川県香川郡直島町 2249-7 Tel. 087-892-2550 Fax.087-892-2011
E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <https://benesse-artsite.jp/>

各種パブリック・プログラムの予定

■ワークショップ

花の型取りワークショップ

パナパン・ヨドマニーの作品《アフターマス》のモチーフのひとつである花のレリーフを作りながら、いつもとは違う視点から自分と世界を見つめます。

日時：10月24日（土）13:00~14:30

会場：直島新美術館 「&CAFE」

対象：小学生以上。小学3年生以下のお子様は保護者の同伴が必要です。

参加費：無料 ※直島新美術館の当日の鑑賞チケットが必要です。

定員：10名（予約制、先着順）

詳細はこちら <https://benesse-artsite.jp/news/20261001-3606.html>

Meditation: The Sound of Naoshima | 瞑想ワークショップ

サニタス・プラディッタスニーの作品《The Sound of Naoshima》のストゥーバ《SILENCE》にて、鈴の音や風の音を聞きながら、心を落ち着かせ、自然と一体となるような時間を過ごす、シンプルな瞑想を体験します。

日時：11月3日（火祝）、11月22日（日）、12月20日（日）

全日程 9:15~9:45 ※各回同じ内容です。

会場：直島新美術館 屋外作品《The Sound of Naoshima》

対象：15歳以上で、日本語の説明がわかる方

参加費：無料 ※直島新美術館に入館される場合は、別途鑑賞チケットの購入が必要です。

定員：各回5名（予約制、先着順）

※日本語のみのプログラムです。

※雨天等により主催者判断で中止することがございます。中止の場合は参加者には前日までにご連絡します。

詳細はこちら <https://benesse-artsite.jp/news/20261001-3608.html>

Different Together! コラージュワークショップ

ヘリ・ドノとインディゲリラの協働作品《人類の自覚：中心への旅》を手がかりに、誰かとともに作る面白さや難しさを体験します。

日時：11月7日（土）13:00~14:30

会場：直島新美術館 「&CAFE」

対象：小学生以上。小学3年生以下のお子様は保護者の同伴が必要です。

参加費：無料 ※直島新美術館の当日の鑑賞チケットが必要です。

定員：10名（予約制、先着順）

詳細はこちら <https://benesse-artsite.jp/news/20261001-3607.html>

■ツアー、ガイダンス

スタッフによるギャラリーガイダンス

当館をより深く楽しんでいただくためのショート・ガイダンスです。日本語のみで行います。

日時：毎週水曜日 10:15~10:30 / 14:00~14:15

会場：直島新美術館

参加費：無料 ※直島新美術館の当日の鑑賞チケットが必要です。

定員：各回10名 ※事前予約不要です。

※参加をご希望の方は開始時間までに館内レセプションカウンターにお集まりください。

キッズギャラリートัวร์

直島在住の子どもたちが、一般の方に向けて自分たちの言葉で作品を案内するギャラリートัวร์です。

実施期間：11月以降順次開始予定

会場：直島新美術館

参加費：無料 ※直島新美術館の当日の鑑賞チケットが必要です。

定員：10名 ※事前予約不要です。

※開催時には、館内レセプションカウンターでご案内します。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 広報担当 〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel. 087-892-2550 Fax. 087-892-2011
E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <https://benesse-artsite.jp/>

ベネッセアートサイト直島主催**直島会議/THE NAOSHIMA MEETING 2026-2028 全5回シリーズが始動**

離島からアート・建築・地域・コミュニティや環境、社会との関わり等を考察し論じ合うシンポジウム「直島会議」。ベネッセアートサイト直島の活動開始から約40年となることを記念して、2026年11月から2028年にかけて全5回のシリーズで「直島会議/THE NAOSHIMA MEETING 2026-2028」として開催します。

ベネッセアートサイト直島は、1980年代半ばより瀬戸内海の離島の自然や昔ながらの暮らしのなかに美術館・アート施設群が点在する世界的にも稀有な特別な場所を生み出してきました。約40年にわたる活動を経て、島は国内外からの多くの人々を惹きつける現代アート・建築の島へと大きな変容を遂げました。

しかしながら、活動の主旨は、決して消費される観光地をつくることではありません。自然・建築・アート・コミュニティの融合を通して、批評精神をもって既存の価値観を問い、よく生きるとは何かを考える場所を創り、地域とともに発展していくことにあります。

直島会議は、その活動の原点に立ち返り、五感で体験できる思考の実験場ともいえる直島ならではの、活気に満ちた議論・考察のプラットフォームをより強固に形成し、知的かつ創造的な交流を促進し島から世界への発信を目指します。全5回、それぞれ異なるテーマのもと、国内外の多様な分野の専門家らを交え、トークやシンポジウム等、様々な形式で開催する予定です。（詳細は決定次第、順次お知らせします）

記念すべきシリーズ第1回は、ベネッセアートサイト直島の活動を牽引してきた福武総一郎と直島に10もの建築プロジェクトを実現した安藤忠雄が、その協働・共闘の軌跡を語り合います。既存の価値観を問い、真の豊かさとは何かを追求し続けてきたベネッセアートサイト直島——その原点とは、そして、彼らを突き動かしてきた思いはいかなるものか——当事者たちが語る貴重な機会となります。皆様のご参加をお待ちしています。

直島会議/THE NAOSHIMA MEETING 2026-2028**第1回「島から世界へ：福武総一郎×安藤忠雄—協働・共闘・挑戦の軌跡を振り返る—」**

日時：11月14日（土）13:30～15:15

会場：ベネッセハウス パークホール

登壇者：福武総一郎（株式会社ベネッセコーポレーション名誉顧問、公益財団法人 福武財団名誉理事長）
安藤忠雄（建築家）

司会：三木あき子（直島新美術館館長/ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター）
笠原良二（公益財団法人 福武財団事務局長）

参加費：無料

定員：100名（予約制、先着順）

主催：ベネッセアートサイト直島（株式会社ベネッセコーポレーション、公益財団法人 福武財団）

詳細はこちら <https://benesse-artsite.jp/news/20261001-3610.html>



左：福武総一郎（株式会社ベネッセコーポレーション名誉顧問、公益財団法人 福武財団名誉理事長）
右：安藤忠雄（建築家） Photo: Kinji Kanno

基本情報

■直島新美術館とは

2025年5月に開館した直島新美術館（館長：三木あき子）は、本村地区近くの高台に位置しています。ベネッセアートサイト直島における安藤忠雄設計のアート施設として10番目となる当館は、日本を含めたアジア各地のアーティストの代表作やコミッション・ワークを中心に展示・収集しており、3階建ての建築に4つの展示室、カフェ、屋外展示エリアを備えています。ベネッセアートサイト直島の他の美術館が常設展示を主体としているのに対し、当館では恒久展示と、時間とともに部分的に内容が変わるその時々展示を組み合わせることで、訪れるたびに新たなアートとの出会いを提供しています。また、展覧会に加え、トーク、ワークショップ、その他のパブリック・プログラムも行い、国内外からの来館者間の対話や交流を創出しています。

■施設情報

直島新美術館（香川県香川郡直島町 3299-73） 開館時間：10:00～16:30（最終入館 16:00）

一般問い合わせ先：info-newmuseum@fukutake-artmuseum.jp

休館日：月曜日（ただし、祝日の場合開館、翌日休館）※不定休あり。ベネッセアートサイト直島ウェブサイト開館カレンダーにて随時更新。

駐車場：一般車両（20台）、自転車（15台程度）いずれも無料

施設 URL：<https://benesse-artsite.jp/art/nnmoa.html>

■チケット

鑑賞料金：オンライン購入（日にち指定）1,500円／窓口購入 1,700円／15歳以下無料

新展示をご鑑賞いただける12月12日（土）以降のオンラインチケットは**2026年10月9日（金）10時より発売**

チケット販売：ベネッセアートサイト直島 美術館予約サイトにて

<https://benesse-artsite.jp/general-information.html>

■ベネッセアートサイト直島とは

「ベネッセアートサイト直島」は、直島・豊島（香川県）、犬島（岡山県）を舞台に株式会社ベネッセコーポレーションと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと——各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々と触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセコーポレーションの企業理念である「ベネッセよく生きる」とは何かについて考えてくださることを目指しています。

そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるよう、現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。

■ベネッセアートサイト直島の歴史について

参照 URL：<https://benesse-artsite.jp/about/history.html>